

令和3年度 学校自己評価システムシート (県立川越女子高等学校)

目指す学校像	「学力の向上」と「人格の陶冶」を柱に組織的教育活動を展開して進学実績の向上を図るとともに、生徒が主体的に学ぶ「質の高い授業」の創造に全力で取り組む学校
--------	---

重点目標	1 ≪学力の向上≫ 生徒の学習意欲及び進路意識を喚起し、自学自習力の定着・維持に努め、真の学力の向上を図る。 2 ≪人格の陶冶≫ 「品格のある、志の高い生徒」「自主・自律の精神に満ちた自立した生徒」を育成する。 3 ≪開かれた学校づくり≫ 関係機関との連携を更に深め、学校情報の積極的な発信に努める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	■現状 ・2学期制、土曜授業、行事の精選等により授業時間確保に努めている。 ・授業相互参観・先進校訪問・予備校研修参加等、教員が常に学ぶ姿勢をもっており、質の高い授業が展開されている。 ・進路指導部と各学年等との連携を通じた様々な取組により、生徒一人一人の進路意識の向上に努めている。 ・SSH事業や県の指定事業等を有効活用している。 ■課題 ・自学自習を推進し、生徒自身の取組状況の向上を図る。 ・より高みを目指し満足や納得のいく進路実現に向けて意識の啓発を行う。 ・高大接続の流れを踏まえながら、教科間連携を視野に入れた授業を組織的に取り組む。 ・SSH事業の第4期申請に向け計画的に生徒・教員が一丸となって取り組み、学校全体で事業を推進、実施する。	1 より質の高い学びのために、計画的・自主的な学習をさらに推進する。	① 定期考査等の実施前後に各自の課題に基づいた目標設定と学習計画作成、振り返りを行わせる。 ② ICTを活用した教科指導を促進し、質の高い学びができる環境の提供とサポートを行う。 ③ 教科間連携授業を積極的に取り組む。 ④ 自学自習力向上の為に、シラバス、学習OT、スタディサポートや進学課外補習、学習室開室、出張講義、図書館利用促進する。 ⑤ 教員授業相互参観や指導力向上セミナー参加、授業の質を向上、自主的学習支援を行う。	① 全生徒が課題を把握し、目標設定と計画的な学習ができたか。今後の目標設定に繋がれた生徒の割合。 ② 通年でICT環境の整備、質の高い学びができたか。また、全学年とも校務支援システムをスムーズに運用できたか。 ③ 全教科で教科間連携を実施した回数が昨年より増えたか。 ④ 年間を通じて、左記の方策を計画的・効果的に実施し、生徒の自学自習力を高める学習環境の提供とサポートができたか。 ⑤ 教員の授業力向上のための取り組みのサポートが年間を通じて計画的・効果的に実施できたか。				
		2 保護者と連携し、国公立大学、難関私立大学、医学部を目指す進路意識の啓発を継続する。	① 保護者のための進路勉強会や面談等を通じて適切な情報の発信、学校と家庭の両方で生徒の進路意識を高める。奨学金募集のガイドラインや選考方法を検証し、支援する。 ② 選択科目の希望調査の時期・方法について、希望実現のため、計画に沿った適切な指導を行う。 ③ 高大接続、研究所等と連携し、成果を上げる。	① 年間を通じて適切な時期に適切な進路情報を発信し、学校だけでなく家庭においても生徒が進路を考える環境を作れたか。 ② 80%~90%の生徒が、主体的に自己の進路を考え、年度当初の高い進路希望を継続させ受験に臨めたか。また、国公立100名以上、難関私立大学80名以上の合格を達成できたか。 ③ 大学と連携する課題研究生徒を増やせたか。				
		3 SSH事業、県指定事業内容について、生徒への積極的な情報提供により参加を啓発するとともに、学校全体で事業を推進・実施する。	① SSH事業や県指定事業について必要に応じて説明会を開催し、生徒にその内容や魅力が伝わるような情報の発信の仕方を工夫する。 ② 学校設定科目、サイエンス教室等を推進する。また、外部企画事業への積極的参加を促す。	① 生徒に告知した事業への参加率。 ② サイエンス教室等本校企画事業への参加者数が昨年度より増加した割合。また、外部企画の事業に参加する生徒が増加した割合。				
2	■現状 ・多くの生徒が多様な活動に自主的かつ積極的に取り組み、充実した高校生活を送っている。 ・教育相談体制が整っている。 ■課題 ・将来、あらゆる分野で活躍するリーダーを育成する。 ・部活動指導方針を踏まえつつ、部活動の充実を図る。 ・支援の必要な生徒に対し、迅速かつ適切に対応する。	1 外部講師の活用や海外プログラムへの参加を積極的に進める。	① SSH事業に基づき、エンパワーメントプログラム、英語プレゼン講座、外国人研究者による講義、海外プログラムを開催し、情報を適時に効果的に提供し、生徒の参加を促す。 ② 大学や研究機関、企業などから講師を招き出張講義を年3回開催する。 ③ 進路講演会の充実を図り、生徒の進路意識を向上させ、進路選択の幅を広げる。	① 適切に広報できたか。広報した事業の9割程度に生徒が参加しているか。 ② エンパワーメントプログラム、英語プレゼン講座、外国人研究者による講義、海外プログラムを実施できた回数。 ③ 出張講義を開催した回数及び生徒の参加者数。				
		2 計画的・効果的な学校行事・部活動の実施により、互いを尊重できる豊かな人間関係の構築を図る。	① 学校行事・部活動で人間的に成長できるように適切な課題を設定し、達成の支援をする。 ② 体育祭や紫苑祭では、安全、安心を第一に、在校生や保護者に感動を与えられるように指導、支援する。 ③ SSH事業における科学系部活動を積極的に推進する。 ④ 生徒会、各実行委員会の生徒との報告、連絡、相談を密に取り学校全体の連携を図り、生徒の活動への支援、協力体制を作る。	① 生徒がそれぞれの立場を自覚し、適切な課題の設定と支援ができたか。 ② 行事後のアンケートや、学校評価で、70%以上が行事や部活動に満足している生徒の割合。 ③ 課題研究の発表など成果を広く普及できたか。また、科学展、発表会等で入賞することができた作品数。 ④ 学校行事を生徒の人間性育成に向けた学校全体の教育活動として取り組むことができたか。				
		3 保護者、学校、外部機関等と連携しながら生徒支援を行う。	① 情報モラルの向上の為の講演会等を行う。 ② PTA、後援会、体育・文化振興会等を通じて、適切な生徒支援を行う。 ③ 関係諸機関と連携し、効果的なSSH事業運営を行うことで、生徒支援につなげる。 ④ 支援が必要な生徒を早期に把握し、家庭、カウンセラー等と連携して支援を行う。	① 講演会等により意識が向上した生徒の割合。 ② 各種行事、部活動の実施が円滑に行われたかを確認し、次年度につなげる。 ③ 運営指導委員会、学校評価委員会からの提言やアンケート結果に基づき、SSHの適正な運営、総括、次年度以降への改善提案がなされたか。 ④ 支援が必要な生徒を早期に把握、家庭や外部専門機関、カウンセラー等によって解決に導くことのできた件数。				
3	■現状 SSH事業を生かし、小学校、中学校、大学等と連携を深め、特色ある教育活動を積極的に発信している。 ■課題 ・本校の良さをさらに情報発信する。 ・地域への貢献を継続する。	1 本校の特色ある教育活動を広報・公開する。特に部活動のページの更新を積極的に行う。	① 保護者対象の土曜授業公開の周知、連絡を組織的に行う。また、学校説明会で広報を行う。 ② 各部活動や各部署の担当等と連携し、ホームページの更新や新たな活用を積極的に促す。	① 保護者へ確実に周知し、総務部等との連携を図り、有意義な広報活動となったか。また、授業公開日数や学校説明会への参加者数が増えたか。 ② ホームページの更新回数が増えたか。また、新たな活用ができたか。				
		2 市内の小中学校への学習支援等を行い地域に貢献する。	① 市内の小中学校学習支援ボランティアの募集をし、生徒の積極的な参加を促す。 ② 近隣小学校での実験教室、クラブ活動支援、川越市内児童対象の冬休み科学教室を実施する。	① 各事業にのべ数十名の生徒が参加したか。また、本校生・中学生双方にとって有意義な活動となり、地域へ貢献できたか。 ② 近隣小学校クラブ活動支援、川越市内児童対象の冬休み科学教室を実施できたか。				